

平成22年度 事業報告書

特定非営利活動法人地下資源イノベーションネットワーク

1 事業の成果

定款の目的を達成するために、調査・研究事業、教育・広報事業および情報ネットワーク構築事業を実施した。本年度は、調査・研究事業として地下ガス化に関する情報収集のほか石炭ブロックを用いた基礎試験を実施した。また「緊急雇用創出推進事業によるクリーンコール活用可能性調査業務」を会員企業とのコンソーシアムで受託し、調査・検討結果を報告書に取り纏めた。教育・広報事業としては、北海道他が開設した「石炭資源有効活用研究会」にメンバとして参加して、未利用石炭資源の有効活用についての提言を行った。更に、活動内容の報告会を開催した他、調査・研究事業の成果を資源・素材2010福岡などで発表した。情報ネットワーク構築事業としては、ホームページによる情報発信に重点を置いた活動を展開した。各事業の主な成果は次のようである：

調査・研究事業

- ・ 石炭地下ガス化研究会の事務局を財団法人石炭エネルギーセンター（JCOAL）から引継ぎ、石炭の地下ガス化に関する技術開発の現状や将来計画等の情報収集、関連文献の翻訳等を実施した。また、石炭地下ガス化研究会、北海道大学、室蘭工業大学と共同で、石炭地下ガス化をモデル化した石炭ブロックの室内燃焼基礎試験を実施し、試料ブロックへの空気（または純酸素）の供給量と石炭燃焼、石炭温度変化、生成ガスの組成の変化等、石炭燃焼とガス化にかかわる関係性を評価するデータを収集し、成果をとりまとめた。
- ・ 「緊急雇用創出推進事業によるクリーンコール活用可能性調査業務」（委託元：北海道）を株式会社レアックス（企業会員）とのコンソーシアムで受託し、国内外における石炭動向、道内の石炭資源関連資料の保存状況、クリーンコールテクノロジー（CCT）の開発動向などの調査を実施すると共に、道内におけるCCT促進の展開方策並びに石炭資源（特に炭層ガス）のローカルエネルギーとしての活用可能性について検討を加え、報告書として取り纏めた。この報告書は既に北海道のホームページにて公開されている。
（<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/sge/CleanCoalReport.htm>）
- ・ 昨年度に引き続き夕張地区をモデルとした炭層メタンの開発・利用に関する情報整理ならびに予備的シミュレーションとビジネスモデルの検討を継続し、本年度は特に、生産した炭層メタンガスを電力あるいは燃料（圧縮天然ガス）として地域に供給するローカルエネルギーモデルを検討した。この検討成果は上記受託事業の報告書に反映させた。

教育・広報事業

- ・ 北海道他が設置した「石炭資源有効活用研究会（準備会7月、第1回8月、第二回10

月、第3回12月、第4回2月、第5回3月開催)」にメンバとして参加し、様々な視点から北海道の石炭の将来展望について情報提供や意見交換を行うと共に、炭層メタンを地域エネルギーの中核として利用するモデルケースの提言を行った。また、夕張経済振興会議が主催した「炭層メタンガス活用検討勉強会（平成23年2月開催）」に講師として参加し、「低炭素社会に貢献する炭層メタンガス利用地域エネルギーの可能性」と題する講演並びに意見交換を行った。

- ・平成22年5月15日に総会並びに報告会を開催し、平成21年度の活動内容及び地下ガス化研究会での情報収集活動（地下ガス化研究会活動概要、燃焼基礎試験概要）、「北海道石炭問題勉強会」参加等の報告を行った。
- ・資源・素材2010福岡（平成22年9月）及び北海道エネルギー資源環境研究発表会（平成23年2月）において、石炭地下ガス化に関する基礎実験の成果を報告した。

情報ネットワーク構築事業

- ・ホームページにより NPO 法人の概要、事業内容などの情報発信を継続するとともに、会員が学会・講演会等で発表した、炭層ガスの利用や石炭地下ガス化に関する内容を公開し、広く技術情報の提供に努めた。
- ・国内外の関連大学、研究機関、官公庁、企業等との情報ネットワークを構築するための基礎情報を収集した。
- ・地下ガス化に関する情報収集を目的として、昨年度に引き続き UCG Association（本部 ロンドン）にアカデミー会員として登録。平成23年3月にロンドンで開催された第6回 UCG 国際会議・ワークショップに1名が参加した。